

## 福井県社会教育活性化会議 主な意見

日 時：平成27年2月5日（木）15時00分～17時00分

場 所：福井県生活学習館 学習室301・302

出席者：学識経験者2名、学校教育関係者2名、社会教育団体9名 計13名出席

### ◆ 主な意見

#### (1) 「福井しあわせ元気国体」を契機とした県民運動への対応について

- 社会教育団体の加入者数も減っており、前回国体時と同じような協力をするのは難しい。依頼を受けてから可能なことを考えたい。
- 花いっぱい活動やプラカード持ち、会場清掃などやれることはあると思うが、どれだけ人数を出せるかとの兼ね合いになる。
- 人数が多いのはPTAであり、地域とのつながりや公民館との連携など色々な活動を考えることはできる。ただ、平日は仕事の方も多く、空いている時間で何ができるか考えることが必要である。
- 国体に向けた県民運動を社会教育団体の活性化につなげていきたい。県民運動と社会教育の活性化をリンクさせられればいいと思う。
- 各団体と公民館をつなぐ仕掛けや顕彰制度など、国体に向けた活動を活性化させる方法も考えたい。
- 社会教育団体以外にも県民運動への参加を呼びかけたい。国体だけで終わりにするのではなく、これをきっかけに地域を見つめ直せるよう長いスパンで考えてはどうか。

#### (2) 子どもたちの「社会力」の育成について

- 今の子どもはいろいろな体験活動が用意されており、ボーイスカウトの会員が増えない理由を思い知らされる。将来的にも厳しい。
- ボーイスカウトやガールスカウトは単発のイベントではなく、長期的に成長を見守りながら課題解決力や社会性を育てるものであり、楽しく終わるだけの体験活動とは違う。
- 体験活動では一つずつ物事に挑戦させる。非日常の苦しい条件の中でどうするかを自分たちで考えることで達成感と自己肯定感が生まれる。

- 自分を表現する力や異なる他者を受け入れる力は集団での体験で培われる。大人が企画したお仕着せの体験ではなく子どもたち自身が考える機会をつくることが重要である。
- 体験活動の中で、自分ができること、できないことを他者と役割分担することを覚えるし、社会性も身に付くのではないか。
- 指示待ちや積極性のない子、我慢のできない子が増えている。両親の育て方の問題もあり、親を育てることも大事である。
- 公民館主催で小中学生の野外キャンプを行っている。今回、過去にキャンプに参加したメンバーが成人式の取りまとめをしたところ、出席率が良かった。すぐに効果が出なくとも、長い目で見ると効果があるのかもしれない。
- あえて大人が口を出さず、子どもたちだけで問題を解決する場面をつくってはどうか。小学6年生と1年生など、違う世代と関わる機会を増やすことも大事だと思う。
- 学力・体力が高い子どもたちの次をどうするか。社会力、表現力、異質な他者を受け入れる力といえるが、学校教育だけでは限界がある。地域ぐるみで子どもを育てる必要があるし、学校の中でつまづいた子どもの居場所を地域につくるという視点も必要だと思う。

## 第5回福井県スポーツ推進審議会

### 主な意見

日 時：平成27年2月2日（月）15時30分～16時30分

場 所：福井県庁第三委員会室

出席者：福井県スポーツ推進審議会委員 13名出席

#### ◆ 主な意見

##### <スポーツ少年団>

- スポーツ少年団は子どものスポーツ機会減少への歯止めになっている。以前は競技力向上しか考えていなかったが、周囲の環境も変わり、最近はスポーツを楽しむことが中心になっている。
- 本格的にスポーツをしたい子どもはクラブチームに入ることも増えており、気軽にスポーツをしたい子の受け皿としてのスポーツ少年団を考えることも必要である。特に幼児期からでもスポーツ少年団に入ることができるといい。

##### <学校部活動>

- 運動好きとそうではない子どもの二極化が進んでいる。どのような授業で運動を好きになるきっかけをつくるかを考えないといけない。子どもと一緒に親を運動に巻き込むことを県全体で考えてはどうか。
- 中学校では入学時点からスポーツ少年団経験者とそうではない子どもで二極化している。部活動に縛られずに早く帰りたい子どももいるし、試合で一方向的に負けて運動が嫌いになる子もいる。
- トップを目指す大会と勝ち負けにこだわらず楽しむ大会に分けるなど、いろいろなニーズに応えることも考えてはどうか。
- 中学校の部活動では専門指導力を持った人材が少ないので配置を工夫して効率的に指導できるようにすることが必要である。
- 高校になると運動部活動の加入率は中学校よりも低下する。土日を利用して中学校と合同で部活動を行うなど、運動を継続させる取り組みを考えたい。

##### <遊びを取り入れた運動>

- 遊びを交えた運動を行うことで、小学5年生300人の運動習慣・体力がどう推移するかを追跡調査する。今年度から始めて5年間を予定している。

- 幼児・親子を絡めた取り組みが大事だと思う。少しだけでも毎日運動することが楽しむことにもつながる。わらべ歌を取り入れた伝承遊びについても、子どもだけでなく中高年向けにも取り入れたところ、好評であった。

### <運動習慣づくり>

- 運動したいのにしていない人も多いのではないか。やりたいスポーツをする環境がないと思うし、親子一緒に運動できる場があるといい。福井国体で地域の環境も整備されるので、きっかけとしてはいいと思う。
- 子どものスポーツ機会、成人の運動習慣を高めるには、健康づくりの観点が取り組みやすい。必ずしも競技とまではいかなくとも、興味を持った人が家族と一緒に参加できるような仕掛けが大事ではないか。
- 競技スポーツの部分では、やりすぎるとかえってスポーツを嫌いになる子が出てきてしまう。スポーツ少年団などでも、人数が少ないので低学年の子どもに負担がかかることがあるし、いかに継続につなげるかという指導が重要である。

### <その他>

- 障害者スポーツに新しく参加する選手が少ない。門戸は開いているが、触れる機会も少ないし、スポーツまでは意識が回らない人も多い。福井には健常者と一緒に参加できる大会などが無いので、障害者部門の新設なども考えてもらいたい。
- 指導者の人数は増えているが、活動の実態が見えにくいので、今後、対外的にもしっかり見せられるようにすることが必要である。